

# 圓福寺再建のご報告

——落慶法要と会計報告

臨濟宗妙心寺派  
大廣山 圓福寺



目次	ページ
ごあいさつ	2
発願から落慶まで	3
再建まで	5
伽藍再建落慶法要	26
31	ご寄付のまとめ
32	再建工事収支報告書
33	編集後記

## 再建 御礼

檀信徒の皆様はじめ、ご縁のある皆様におかれましては、ますますご清福のこととお喜び申し上げます。

皆様には、平成27年3月の火災以来、ご心配ご迷惑ご不便をおかけいたし、また再建にあたっては多大なるご寄付をたまわり、心より深謝申し上げます。

昨年2月の落慶法要から早一年が過ぎ、決算のご報告をする時期ではございりますが、分割でご寄付をされていりる方がいらっしゃるので、決算はまだ先と考えておりました。ところが、過日の役員会にて、令和2年3月末を以て再建の特別会計を締めて、伽藍再建事業を円成させることと相成りました。

つきましては、落慶法要のご報告には遅きに失し、伽藍再建事業の決算は繰り上げという形になりますが、ここに伽藍再建のご報告とさせていただきます。

突然の火災から4年弱で落慶法要までこぎつけることができたことに、落慶法要にご出頭の和尚様方から驚きの声をとくさんいただきましたが、ひとえに檀信徒の皆様はじめ、役員の方々、そして工事にあたって下さった菅野企画設計様、松浦建設様のお蔭でございします。

再建工事の中に、愚僧も馬齢を重ねて還暦を越えてしまいました。先日、京都で修行5年目を迎える長男が2泊3日の休みをもらって帰山しましたので、まだ帰って来ないのかと聞くと、あと最低でも3年は修行を続けると言います。愚僧にとっては、あと最低3年は住職として、本尊様、歴代の和尚様、檀信徒の皆様さまに対しての報恩の行に務めなければならぬこととなります。さらに引き締めたいと存じておりますので、なにとぞ、旧にも増してのご鞭撻をお願いして、ご挨拶のこととさせていただきます。

令和2年4月吉日

大廣山圓福寺 住職 宮田 宗格 合掌

# 発願から

平成27年3月31日	平成27年5月29日		平成28年2月10日	平成28年3月1日	平成28年4月	平成28年5月10日	平成28年5月25日	平成28年6月10日	平成28年6月30日	平成28年9月23日	平成28年10月19日	平成28年10月20日	平成28年11月10日	平成29年1月15日	平成29年3月10日	平成29年4月20日	平成29年5月9日	平成29年6月13日	平成29年6月30日	平成29年7月4日
不審火により全焼	仮設寺務所設置	役員会にて早期再建に動き始める	全体設計「菅野企画設計」社に決定	設計士さんと打ち合わせ（月1回で継続）	長男宗耕禅士、京都圓福僧堂掛搭（入門）	「再建だより」第1号発行	「再建だより」第2号発行	「再建だより」第3号発行	「再建だより」第4号発行	役員会にて、再建資金計画案承認	「圓福寺再建に向けて」（再建趣意書）発送	実施設計を、菅野企画設計と契約	「再建だより」第5号発行	「再建だより」第6号発行	「再建だより」第7号発行	「再建だより」第8号発行	施工会社選定のための現場説明会	施工会社「松浦建設」に決定	地鎮祭	大本山妙心寺より見舞金拝受

火災翌日の焼け跡の様子



宗耕禅士、出発の朝  
（市原の仮住まいの庭で）

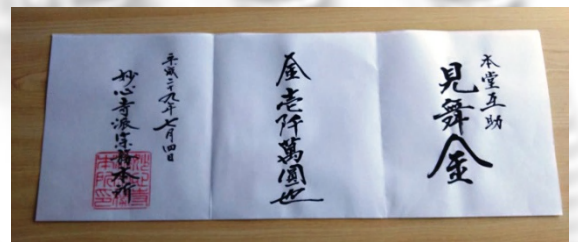


## 圓福寺再建に向けて

— 加建再建ご協力をお願い —  
臨濟宗妙心寺派  
大原山 圓福寺



地鎮祭を終えて安堵の役員さん



本山からのお見舞金を拝受

# 落慶まで

平成29年7月15日	「再建だより」第9号発行（寺報と合併号）
平成29年7月22日	現場事務所開設
平成29年7月29日	整地作業始まる
平成29年8月19日	基礎杭打ち工事
平成29年9月13日	基礎工事始まる
平成29年9月20日	「再建だより」第10号発行
平成29年9月29日	千葉銀行と融資契約
平成29年10月12日	仏像・仏具検品 於廈門
平成29年11月15日	「再建だより」第11号発行
平成30年1月18日	材料検査 於松浦建設
平成30年1月22日	鉄骨建て方始まる
平成30年2月19日	本堂の鉄骨工事
平成30年3月13日	上棟式
平成30年4月1日	「再建だより」第12号発行
平成30年6月1日	「再建だより」第13号発行
平成30年8月5日	外構工事はじまり
平成30年9月25日	「再建だより」第14号発行
平成30年11月21日	建物完成検査、その後建物引き渡し
平成30年12月1日	井戸掘り・庭工事はじまり
平成31年2月21日	寺号額取り付け
平成31年2月24日	伽藍再建落慶法要

基礎杭打ちの様子



巨大倉庫内に並べられた材木



好天に恵まれた落慶法要の日

## 再建まで ピックアップ

再建までの様子を掲載した圓福寺ホームページ上の「現場だより」を編集しなおしてご紹介いたします。

### 1.見納めの木蓮

平成29年03月18日



境内の木蓮がきれいです。

伽藍再建にあたり、ぼちぼちと境内の庭木を移植しているのですが、この木蓮は移植するための「鉢」が作れないので、移植はかないません。

よって、やむなく伐採しなければなりません。せめて、最後の花を見せてもらってからと思い、開花を待っていたのですが、お彼岸に合わせるように咲いてくれました。花が終わったら、彼岸に送ってあげたいと思います。

### 2.「建築計画のお知らせ」標識設置

平成29年04月12日

駐車場の塀に、「建築計画のお知らせ」という標識を掲示し、近隣・通行の人に再建工事をはじめることを周知します。



### 3.木蓮とタイサンボクの脱霊

平成29年 04月 20日



木蓮の見納めの花が終わったので、いよいよ伐採しました。あわせて、タイサンボクも倒しました。

チェーンソーでやればバリバリ、どっすーんとあっという間ですが、それでは今まで庭を彩ってきた木々たちに申し訳ないと思い、のこぎりを使っての手作業で切ってやることにしました。のこぎり一挽一挽に気持ちを込めて、木々の脱霊といった感じでした。

毎年春を感じさせてくれた木蓮、先住職が隠居さんに、「狭い庭に、大木になるタイサンボクなんか植えるな。」と言われても植えたタイサンボク、長い間お疲れ様でした。

タイサンボクの切り口は60cmちかくあるでしょうか。切り落とした枝先は、軽トラの荷台にギューギューにしてちょうど一杯ありました。

### 4.見積書出そろ

平成29年 06月 02日

再建工事の見積書が出揃いました。現場説明のあと、一社が見積もりを辞退しましたので、計三社から見積もりをいただきました。各社とも分厚い見積書です。役員会で開封し、その後、菅野企画設計さんに精査していただき、6月13日の役員会で施工業者さん決定の予定です。



## 5.地鎮祭をしました。

平成29年06月30日



曇り空から時折ポツリポツリと雨が落ちてくる天気でしたが、梅雨真っ最中には好天と言える中、午前10時から伽藍再建工事の地鎮祭を執り行いました。

前日に、建物の外周となるところにロープを張っていただき、本堂中央、本尊様を安置する場所にテントを張り、紅白の幕を巡らせてもらいました。張ったロープのおかげで、およその建物の大きさや位置関係がわかり、いよいよ工事が始まるんだなという実感がわきました。



地鎮祭に先立ち、船蔵尚一さんご夫妻による「獅子舞」の奉納をしていただきました。獅子舞の奉納に続いて、幼稚園児代表の子による献灯献花、そして住職の焼香三拝。お塩やお酒をまいて、読経。

読経中に参列の皆さんのお焼香。地鎮回向のあと、地鎮の儀として、

○刈初の儀（鎌を使って敷地の草を刈りはらう）を、圓福寺役員代表で福田和夫さん

○穿初の儀（鍬を使って土を掘り起こす）を、菅野企画設計社長の菅野良司さん

○穿初の儀（鋤で地面をならす）を、松浦建設社長の松浦弥さん

がそれぞれ掛け声とともにしてくださいました。

地鎮の儀が終わって、住職のあいさつをさせていただき、無事式を終えることができました。

参列してくださった檀信徒のみなさまには、ご参集いただきありがとうございました。



## 6.本山見舞金を拝受

平成29年07月04日

本山から宗務総長さんがわざわざお見えになり、妙心寺派の見舞金を頂戴いたしました。

圓福寺の役員一同が同席のもと、見舞金目録を拝見させていただきました。本来なら、本尊様の真前にお供えをして三拝するところですが、本尊様はじめ何もありませんので、失礼ながら省略させていただきました。

この見舞金は、全国の妙心寺派寺院からの互助見舞金をまとめてくださったものです。





## 7.空飛ぶ巨石

平成29年07月21日

庭の巨石を移しました。以前、参道右側、駐車場の土留めのようになっていた巨石と、本堂前に鎮座していた巨石を、本堂予定地の西側、墓地への参道の左側に動かしました。

活字にすればこれだけですが、巨石というだけあって、両方とも10.5トンもあり、35tの巨大クレーンで吊り上げての大仕事でした。これには木村グリーンガーデナーさんだけでなく、石工の中島市郎氏も応援に駆け付けてくれました。中島さんは、

圓福寺の涅槃精舎の巨大涅槃像の据え付けにも携わっていて、小さな石から大きな石まで扱える石のプロですから・・・。

夕方には作業を終えることができました。お疲れさまでした。

本堂予定地西側に据え付けられた巨石を、幼稚園側からみると、急に岩山が出現したように見えました。本堂から見下ろした時や墓地に行くときにどんな感じの庭に仕上げてくれるのか、木村さんの腕の見せ所。今から楽しみです。



【左】駐車場の塀のところからようやく取り出せました。

この後、一人では持ち上げられないほど重いワイヤーロープを二本掛けて吊り上げます。人間と比べると、その大きさがわかります。



【右】クレーン車が足を広げたところを見ると、いかに巨大なクレーンかわかります。

吊り上げられた巨石の左奥に、本堂前にあった石も見えますが、どちらの石も10.5トンだそうです。



庭のクスノキの大きさとクレーン車の大きさを比較してみてください。その大きさに驚かされます。

写真で吊り上げられているのは、本堂前にあった石です。

クスノキの根元に据え付けられた巨石と、本堂西側の庭にあった石。

巨石以外は、工事の邪魔にならないように寄せ集められたものです。庭を作るときにはそれぞれふさわしい場所に配置されることとなります。



## 8.現場事務所の設置

平成29年07月22日



今日は、ユニック車が3台、駐車場に並んで、現場事務所設置の作業です。

慣れているとはいえ、手際の良さに感心しながら、大師堂でのご法事を終えました。

明日は、25回目を迎える、圓福寺寺子屋「禅童会」を市原別院で行います。宿泊できないので1日だけの日程です。来年、もう一回だけ日帰りの禅童会で、再来年からはふたたび一泊二日の日程にもどれると思います。やっぱり、坐禅の時間も少ないですし、食事の回数も一回だけでは子どもたちが感じることにも限界がありますからねえ。それと、大部屋での雑魚寝なんて、なかなか経験できることでもありませんし・・・。

## 9.庭・駐車場の解体が始まりました。

平成29年07月29日

今日から、庫裏の前庭や駐車場の塀などの解体が始まりました。

2台の重機で、解体というか、片付けといった方がいいでしょうか。それぞれ役割分担ができていて、あうんの呼吸で手際よく片付けられていきます。

以前、テレビで住まいの片付けの極意を聞いたことあります。それぞれのものに、置き場所というか住所を決めるのだそうです。ものを使ったらすぐに元の住所に戻してやることを習慣化すると、家の中はちらからなると言っていました。

解体工事の様子を見ていると、木の根や枝、ブロック片や石、鉄などの金物類、塩ビパイプなど、それぞれ場所を決めて分別しています。そんな作業の様子を見て、整理術の極意を思い出しました。



## 10.看板をおろす

平成29年08月04日

駐車場の道路わきに立っていた、圓福寺の看板を下ろしました。

「看板をおろす。」なんて聞こえはよくありませんが、伽藍再建工事で、この場所に山門が建てられることになっています。看板がなくなっても、山門という新たなランドマークができれば、ここにお寺があることは気づいてもらえると思います。また、中央に立っている門柱を再利用して、「寺号石」として山門のわきに立てたらどうかと思っています。



## 11.「没蹤跡」(もっしょうせき)

解体工事・整地作業が終わりました。

平成29年07月29日

庫裏前庭の片付け、池の沈殿槽や循環槽の解体撤去、庫裏への敷石、本堂への参道、墓地への参道の片付け、駐車場塀やブロック塀、ブロック土留めなどの解体、以上の仕事が終わり、整地作業も完了して、何もなくなりました。

本堂や庫裏へ行く石畳は、原石の切れ端を拾ってきて、自ら敷いたものでした。その後、檀家の有志の人たちと酸素バーナーで焼いて、濡れても滑らないように手を加えました。そんな石も廃棄物となってしまいました。また、墓地への参道の敷石も、墓石の台座や石材店の廃棄物を集めて、自ら作りました。それも、重機の手にかかったら一瞬で片付けられてしまいます。

禪に、「没蹤跡」(もっしょうせき)という言葉があります。とかく、人は、「俺があれをやった。」「俺が面倒を見てやった。」などと言いたがり、自分の功績などを認めてもらいたいとかひけらかしたいとかいう思いを抱きがちですが、そんなものにとられるなというので、「没蹤跡」、痕跡を残すなと戒めています。厳しい修行の後に得られるお悟りさえも、悟後の修行でその臭みを消してしまえと言っています。

二台の重機が、蹤跡を消し去ってくれて、「本来無一物」にしてくれたということでしょうか。

## 12.杭打ちがはじまりました。

平成29年 08月 19日



工事現場に、重機が3台入って、いよいよ杭打ちがはじまりそうです。

現場でコンクリートを練る機械でしょうか、高さ5メートルもありそうな円筒の機械や、コンクリートでできた杭が何本も運び込まれました。

一番大きな重機は、地中に杭を打ち込むものだと思います。

幼稚園の園舎を建てる時には、地盤がよかったので杭打ちをせずに済んだのですが、お寺の方の地盤調査をしたら、杭を打たなければならず、こんな大きな重機の出番となりました。園舎とわずかしか離れていないのに、地盤は調べてみないとわからないものなんですね。とはいえ、これで盤石な基礎ができることは間違いありません。

## 13.基礎工事がはじまっています。

平成29年 09月 13日

お彼岸前ですが、掘り残しの「ヒガンバナ」が満開です。

年によって、今年の「ヒガンバナ」は遅いとか、お彼岸に間に合うだろうかと心配することもありましたが、今年は解体・杭打ち・基礎工事と、重機が入って震動が多かったので「ヒガンバナ」も早めに咲いたのかもしれない。

工事の方は、杭打ちが終わって、周囲のブロック塀の解体も終わり、いよいよ基礎工事がはじまりました。敷地いっぱい建物が建つために、基礎工事で掘った土を片付け片付けの作業のようです。



## 14.遺跡発掘現場？

平成29年 09月 18日



建物の基礎部分の根伐りがはじまりました。

基礎のコンクリートを作るための、溝やら穴やらを掘っているようです。

現場事務所の二階から撮影すると、遺跡の発掘現場のようです。

台風18号がやってくる前に、捨てコンも打つことができ、ほっと一安心でした。

## 15.基礎の鉄筋工事

平成29年 10月 26日

雨続きの現場も、今日は久しぶりの好天で、作業もはかどっているようです。

太さ・長さ・形状などが異なる鉄筋を図面通りに配筋するのは、見ていると「知恵の輪」のようです。

よくも間違えずにできるものだと、感心させられます。



## 16.基礎の型枠工事

平成29年 11月 10日



書院・庫裏部分の型枠工事をしています。生コンを流し込んだ時に、生コンが漏れないように、また、型枠が膨らまないように鉄パイプで型枠を固定していきます。

## 17.基礎の生コン打設

平成29年 11月 14日



型枠工事が済んだ書院・庫裏部分から、基礎の生コンが流し込まれています。奥行きがあるため、コンクリートポンプのホースも目いっぱい伸ばされています。

## 18.基礎完成

平成29年 12月 12日



本堂部分の生コン打設も終わり、型枠がすべて取り払われました。

これで、基礎工事が無事終わりました。

この頑丈な基礎の上に、鉄骨が建ち始めるのは1月20日以降の予定です。

これまではどちらかという平面の工事だったので、鉄骨が建ち始めると、いよいよ立体的な工事となり、建物のボリュームが一気に増すことと思います。

## 19.鉄骨・木材の検査

平成30年 01月 18日



建物に使われる鉄骨と木材の検査に立ち会いました。

鉄骨は、松浦建設さんの地元、石川県能美郡川北町の「竹内鉄工」さん。木材は、当然「松浦建設」さん。ということで、生まれて初めて北陸新幹線に乗って金沢に行き、乗り換えて小松まで行きました。

数日前にニュースをにぎわせていた北陸の豪雪がしっかりと残っている中、鉄工所の中は圓福寺で使われる鉄骨だらけです。これでも、書院

・庫裏部分の鉄骨だけですとの説明に、建物のボリュームが現実味を帯びてきました。

検査のほうは、竹内鉄工さんの社内検査報告と、第三者の検査機関「北陸検査」さんの検査報告、それから、実物を確認・・・、と言っても、菅野企画設計の設計士、東松さんが念入りに検品してくれましたので、私は鉄材のにおいと溶接の光と音を浴びていただけですが・・・。

## 19.鉄骨・木材の検査(つづき)

平成30年01月18日

昼食をはさんで、午後からは木材の検査です。

松浦建設さんの「倉庫」と言われる、長さ130メートルの巨大な材木置き場とにかく圧倒されました。金沢城の修復に使われるケヤキの巨木をはじめ、国産ヒノキ、米ヒと呼ばれるアメリカのヒバなど、寺社建築に使われる木材が日本はもとより世界から仕入れられているようでした。「この材料を使い切るのには、100年以上はかかるでしょうね。」と笑いながら言う、松浦社長でした。

そんな巨木だらけの中に、「圓福寺様」と書かれた立札が用意され、柱に使うヒノキが魚市場に並べられたマグロのように並べられていました。確か、圓福寺の建物は鉄骨だったのでは・・・、という方には不思議かもしれませんが、構造は鉄骨ですが、それ以外は木材を多用する設計になっていますと、菅野企画設計の菅野さんが言っていました。というわけで、柱材も結構な本数があるのです。とはいえ、松浦建設さんの倉庫の中では、ほんのちょっとと言わざるを得ません。そのほんの少しを検査するために、巨木を動かしたりしてその場所を用意するだけでも面倒だったんだろうと想像に難くありません。お手数をおかけいたしました。

木材の検品も、設計士の東松さんが、節がどこにあるか、どの材をどこに使うかなど入念に確認してくれました。

倉庫以外にも、加工センター・作業場に分散している木材を見せていただきました。作業場とはいえ、学校の体育館ほどの建物が5~6棟もあり、スケールの大きさに驚かされました。



作業場では、圓福寺の現場を任された棟梁の和田さんにもお会いすることができました。鉄骨づくりではもったいないぐらいのいい材が入っています、との言葉に気をよくさせてもらいました。また、破風板をとる幅1メートル以上ある板材も見せていただき、これを切るのはもったいない・・・木のいのちを使うっていうのはこういうことかと実感させられました。

鉄骨・木材の検査に素人がお邪魔してはどうかと思いましたが、お邪魔させていただき、出来上がる建物に対する気持ちをさらに奥深いものにさせていただき、大変有意義な時間となりました。

菅野企画設計の東松さん、松浦建設の会長さん・社長さんをはじめ社員のみなさん、竹内鉄工のみなさん、ありがとうございました。



## 20.鉄骨建て方の予定

平成30年01月20日

鉄骨検査の時にいただいた予定表から、これからの建て方日程をお知らせいたします。

1月22日（月）	書院・庫裏の建て方開始
1月29日（月）	書院・庫裏の鉄骨建て方完了
1月30日（火）31日（水）	ボルトの本締め完了
2月12日（月）	本堂部分の鉄骨建て方開始
2月24日（土）	本堂部分のボルトの本締め完了
（2月23日～25日 3巡目第4回四国あるき遍路の旅）	
3月13日（火）	上棟式

となっております。

## 21.書院・庫裡部分の鉄骨が建ちはじめました。

平成30年01月22日



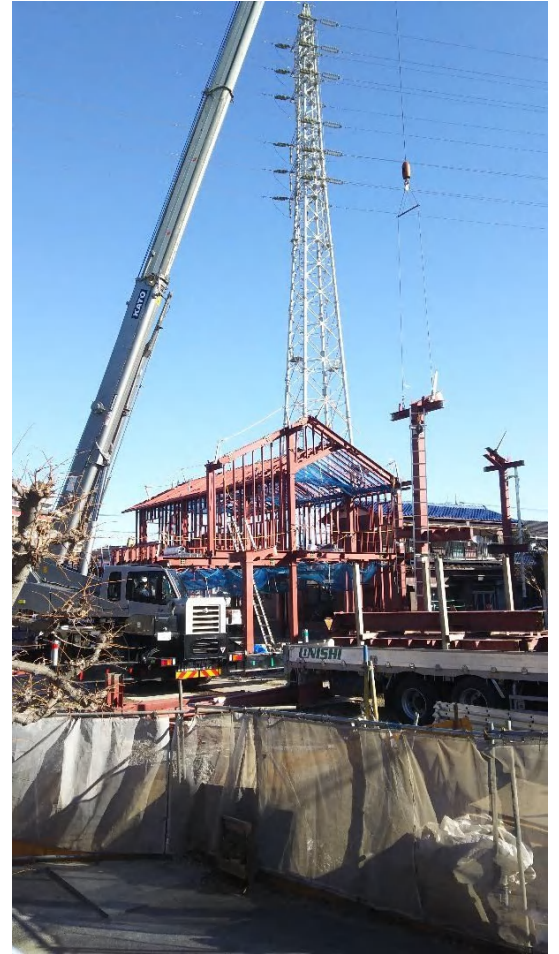
寒空の中、書院・庫裏部分の鉄骨が建ちはじめました。午後からは、天気予報通り、雪が降ってくる中でしたが、予定の作業が無事終わったようです。

途中、幼稚園の子どもたちも見学を訪れ、レッカーのオペレーターさんに「ガンバッテっ！」と、声をかけていました。働くクルマをこんなに身近で見ることもないでしょうから、男の子たちは少し興奮気味でした。



## 22.書院・庫裡の鉄骨工事(その2)

平成30年01月27日



石川県から豪雪の山を越えてやってきた大型トラックから、鉄骨が降ろされて、次から次に建てられていきます。

書院・庫裏の姿が、みるみるあらわれてくるという感じです。

あそこが庫裏の玄関になるんだな、骨組みだけだと書院は結構広そうだな、書院・庫裏は高さがあるな、とか見ているとよくわかります。

## 23.本堂の鉄骨工事

平成30年02月19日

書院・庫裏の鉄骨工事が終わり、いよいよ本堂部分の鉄骨工事です。

柱をはじめ、壁面の部材、屋根の部材などがトラックから降ろされたところを見ると、まるで鉄工所のように。こんなにたくさんの鉄材が、すべて収まるのかと思うと、さぞかし地震には強いだろうと思います。



## 23.本堂の鉄骨工事(つづき)

平成30年02月19日



柱を立てる前に、細かい部材は、ある程度平らな所で組み立ておき、柱が建ったらどんどん据え付けていきます。

据え付ける鳶さんたちとレッカーのオペレーターさんの息が、よくもまあぴたりと合うものだと感心していたら、無線で連絡を取り合っているのだそうです。なるほど・・・。

鉄骨は、石川県から雪山を超えてはるばる千葉までやってくるのですが、鉄骨をくみ上げている鳶さんたちも石川県からやってきているそうです。この時期、石川県での仕事なら雪に濡れないように合羽を着ての作業ですが、千葉は天気もいいし、仕事がやりやすいそうです。それもあって、今週中には本堂部分の鉄骨工事も終わる予定のようです。

それにしても、本堂の柱の高さには驚かされます。以前の本堂が道路より低い場所に建っていたのに比べ、現在立てている本堂は道路と同じ高さから立ち上げているため、以前本堂が建っていた地面の高さから見ると、高さはさらにあるように見えてしまいます。この背高のっぽの鉄骨から、バランスの良いどっしりとした本堂が出来上がるのが不思議なような気がします。



## 24.本堂の鉄骨が建ちあがりました。

平成30年02月21日



などの上棟の儀式はできませんので、この後周辺を整理して、3月13日に上棟式を執り行う予定です。

鉄骨造りの本堂は、屋根のこう配などを考慮して、鉄骨を組んだ時点ですでに屋根の反りや軒の出具合などがある程度想像

つい先日、本堂の鉄骨工事が始まったと思ったら、もう屋根部分の鉄骨が組みあがります。

本堂部分の一番高い、棟の部分の鉄骨が据え付けられましたから、木造建築でいえば今日が上棟、棟上げと言えるかもしれません。でも、レッカーがいたり、鉄の部材が所狭しと置かれている状態では、餅まき

できます。設計士さんは、計算はお手の物だとはいえ、お寺の屋根のこう配や反りを綿密に図面に起こすのは、やはり寺社建築の経験が豊富じゃないと難しいのだと思います。そして、それを図面通りに加工できる鉄骨屋さんの技術が卓越しているのだろうと思います。

レッカーを使っただけの鉄骨工事は、これで一段落になるかと思っています。

## 25.軒先瓦の意匠が決まりました。

平成30年03月09日

本堂や書院の軒先の瓦をデザインしました。

「大廣山」という山号にしようか、そのものずばり「圓福寺」にしようか思案しましたが、檀信徒の方々になじみのある、○の中に「福」を配したものにすることにしました。とはいえ、そのまま漢字の福では落雁の型みたいになるので、パッと見ですぐに「福」と気づかないようなものの方がいいと思い、右の絵のようなデザインにしました。

これが軒先に並んで、まるい福がたくさん転がり込んで・・・、なんて縁起がいいではありませんか。

掃除を大切にする禅宗ですから、毎日毎日、雑巾であちら福福（ふくふく）、こちら福福（ふくふく）・・・、雑巾がけまで縁起が良くなります。



## 26.屋根工事が進んでいます。

平成30年05月01日

本堂の屋根工事が進んでいます。  
二重の化粧垂木がきれいに並んでいます。

工事現場を見た人が、一様に「大きい本堂になりましたね。」とおっしゃいますが、本堂の間取り自体は以前の本堂とあまり変わっていないので、大きく見えるのは、二重の化粧垂木の施した立派な屋根のせいだと思います。

また、以前は、道路から下がったところに本堂が建っていましたが、基礎を道路の高さに合わせるために高くしたので、より大きく感じるのかもしれません。

本堂妻の破風板も立派です。

これだけ見ると、鉄骨造りの本堂には見えません。

軒先の曲線といい、破風板の曲線といい、宮大工さんの技が感じられます。

これからはじまる瓦工事も楽しみです。



## 27.本堂の瓦葺きがはじまりました。

平成30年06月08日



屋根工事もいよいよ本堂の屋根にとりかかって、正面の屋根にも本葺き瓦が並べられてきました。まだ少しですが、本堂の風格が増していくようです。

## 28.高野マキを製材しました。

平成30年06月06日

かつて、本堂の前にそびえていた「高野マキ」



かつて、「高野山千葉別院」だった名残の高野榎が本堂前に立っていましたが、火災の折に、枯れていくのも忍びないと思い、伐採して市原別院で乾燥させておりました。

伽藍再建工事にあたり、本堂の欄間にでも使えたら、枯れそうになった高野榎も生かされるのではないかと、製材所を探して製材することにしました。

石屋さんからお借りしたトラックに積んで、市原の高滝湖近くの製材所に搬入したところ、わざわざ千葉市から来たの？と驚かれ、また取りに来るんじゃないかと大変だろうからと、すぐに挽いてあげると、ありがたいお言葉。

いったんバンドソーを機械からはずして、「目立て」をするようです。とはいえ、手作業ではなく、一度セットしたら後は機械が自動でやるので、その間に、どんな木取りにするか、太い木をフォークリフトを器用に使って360度まわして、切る面を決めます。

目立てが終わったバンドソーをセットして、いよいよ製材になります。

ブーンと大型の電動のこぎりが動き始め、台車に乗せた榎の木がスライドしていくと、チーンという音がして丸太がスライスされていきます。厚さ7分、21mmにお願いしたので、たぶん既に厚さはセットされているのだと思います。何回か台車をスライドすると、次第に巾のある板材が出来上がっていきます。

丸太の中の腐りがどこにどこまで入っているかは、挽いてみないとプロでもわかりません。

スライスされるたびに、ドキドキひやひや、期待と不安が入り混じります。まるで、昔の出産シーンのように、男の子だろうか女の子だろうかときどきするのに似ています。無事出産となったら、誰に似ているだろうか、女の子だったらかわいいだろうかと欲が出るのと同じで、板材になったらなったら、きれいな木目が出ているだろうか、節はないだろうかと目を皿のようにして見せていただきました。

無事、十数枚の板が取れて、電動のこぎりのスイッチが切られ、もとの静寂に戻りました。静かになったら、製材したての木の香りがあふれていることに気づきました。



## 29.本堂の柱が建ちはじめました。

平成30年06月18日

鉄骨の柱だけでがらんだらった本堂に、いよいよヒノキの柱が建ち始めました。

### 本堂の柱が建ち始めました。



鉄骨作りとはいえ、本堂にはヒノキの柱がたくさん建てられます。太さ7寸、約21cmの見事な柱が、頑丈な土台の上に乗せられ、鉄骨の部材にがっちり止められていきます。

東濃  
ヒノキの七寸柱が  
据え付けられる



ヒノキの柱の間に見える鉄骨も、ヒノキで覆われて、出来上がったときには木造の本堂と見まごうはずです。

かつての本堂にはこんなに太い柱が使われておらず、頼りない感じでしたが、太い柱が建ち始めて、本堂も本来の重厚さを感じていただけたと思います。

## 30.床下地も完成間近

平成30年06月27日

本堂の柱が建てられたと思ったら、もう床の下地が張られています。

【上の写真】本堂の西側隅から内陣方向を撮影したものです。

本堂西側の一間廊下がよくわかります。この廊下の窓に、幅一間半の「火頭窓」が取り付けられます。

【下の写真】庫裏の玄関ホールから内陣方向を撮影したものです。

中庭に面した中廊下が見えます。内陣脇間の天窓から光が差し込んでいるのも、よく見るとわかります。

左に目を転ずると、三間の広縁があるのですが、資材置き場と作業場になっているため、写真を撮っても三間の広さがわからないので撮影しませんでした。ちなみに何の作業をしていたかという、大工さんが太い柱のカンナ掛けをしていました。今日は風が強かったので、透き通るぐらい薄いかんなくずが現場を舞っていました。最近では、薄いかんなくずを見る建築現場は珍しいと思うので、さすが寺社建築の現場だなあと妙に感心しました。



## 高野マキはどこに？



6月8日が現場打ち合わせだったので、さっそく設計士さんに板になった高野檜を見てもらい、本堂の欄間に使っていただくことになり、松浦建設さんに使えそうなところを5枚ほど引き渡しました。かわいい子が旅に出るような気持ちになりました。きっと立派な欄間になって、本堂に帰ってくるのだらうと思います。どうぞ、お楽しみに・・・。



## 31.正面の足場を解体しました。

平成30年07月19日

「現場だより」というチラシ風なものを作ってみました。最初からこんな感じで作ったものをホームページに張り付ければよかったのに、今ごろ気づくなんて……。ちなみに、今まではホームページ上で直接入力して更新していたのですが、編集にかぎりがあったのを我慢して使っていましたが、これからはほかのソフトで作成した「現場だより」をJPEGファイルにして張り付けることにしようと思います。

### 現場だより

Vol. 00

2018年7月号

#### 正面の足場が 解体されました。

正面の足場が、本堂の瓦工事がほぼ完了したことにより、解体撤去されました。

これにより、本堂正面の外観がよく見えるようになりました。漆喰壁も美しく仕上げられていることがわかります。

また、本堂前が一段低くなっているので、本堂を見上げるようになり、大きな本堂に見えるのですが、間口は以前の本堂より三尺広がりただけです。大きく見せるのは、高低差を利用しての視覚効果を設計士さんが計算してのことなのかもしれません。さすが、プロです。



#### 本堂妻の懸魚が 取り付けられました。

瓦工事といい、懸魚の取り付けといい、例年になく酷暑の中での作業になり、本当にご苦労様でした。天にそびえる鬼瓦と懸魚をしたから眺めると、どこの立派なお寺の写真かなと思ってしまう。



#### 職人さ〜ん！

本堂の棟梁  
和田 成さん

本堂の棟梁の和田さんです。金沢城石川門の修復も手掛けた、名工です。【右】顔が小さいのか、柱が太いのか……？



## 32.熱暑日の中、外構工事がはじまりました。

平成30年08月05日



内部の工事と並行して、外構工事がはじまりました。

本堂前の擁壁を作っていきます。

本堂や書院・庫裏を前面の道路の高さに合わせたので、以前の境内の地面と段差が生じるのですが、この高低差を利用して、本堂の前、一段下がったところを駐車スペースにするために擁壁を設けるのです。

この駐車スペースに車を止めれば、お墓までバリアフリーで行くことができ、足が悪い人も安全にお墓詣りすることができます。また、擁壁の仕上げには、御影石を張って、石垣の上に建物が建っているように見えるという意匠的な効果も期待できそうです。

それにしても暑い日々が続いています。そんな中、外構工事の職人さんががんばってくれています。最高気温が35℃を越すと猛暑日といいますが、最近は40℃を越すところも出てきて、それを表す言葉が必要だなんていう議論も出ています。大汗をかいて仕事をしている職人さんを見て、「熱暑日」なんてどうかと思いました。

## ホームページ掲載の「現場だより」以上です。

これ以後の様子は、「再建だより」や「寺報」への掲載となりました。工事完成まで継続できればよかったのですが、建物ができたら内部のしつらいや掃除は自分でやらなければなりませんし、落慶法要の支度もあり、多忙を極めて「現場だより」が尻切れトンボの感はぬぐえませんが、お許しください。

# 伽藍再建落慶法要

平成31年2月24日(日)



臨濟宗妙心寺派 圓福寺



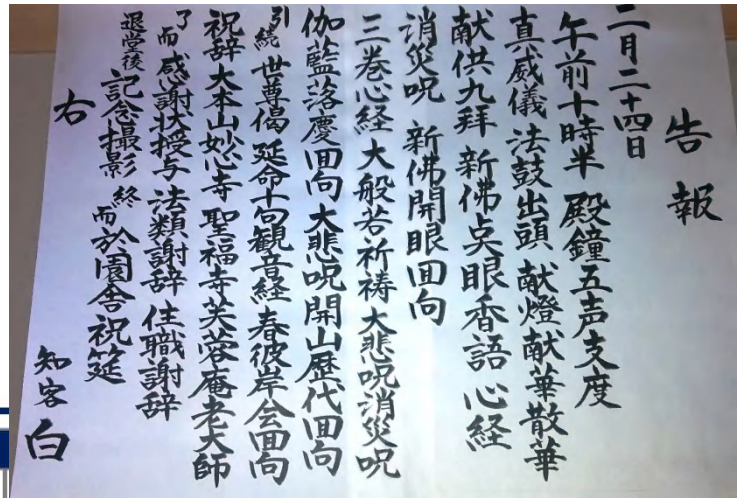
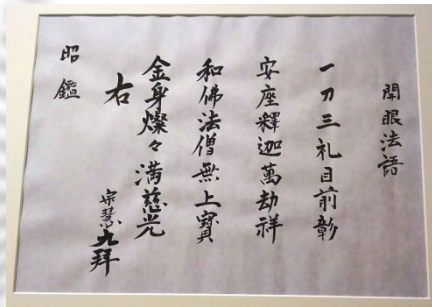
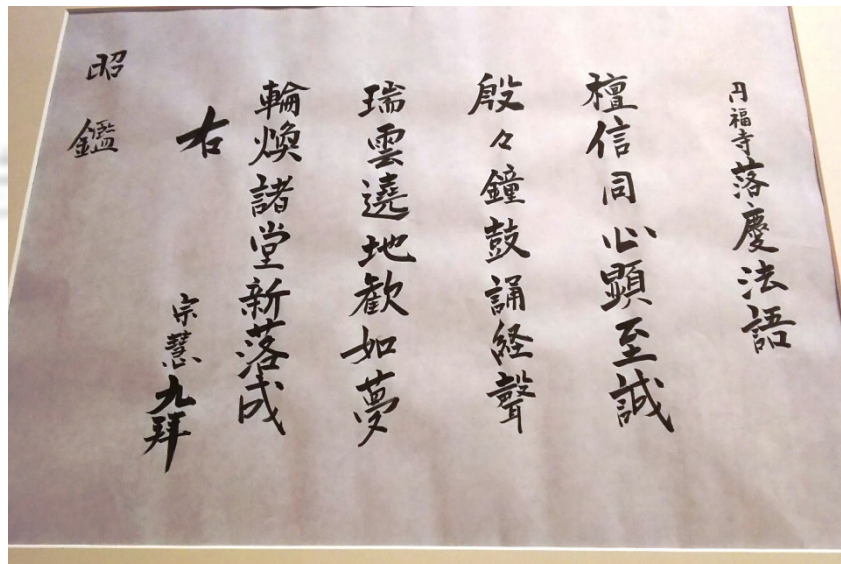




日蓮正宗慶法語



落慶法要



参列の和尚様方

導師			
博多 聖福寺 芙蓉庵 細川白峰老大師			
来賓			
埼玉 平林寺 江楓室 松竹寛山老大師			
東京教区宗務所長 本駒込 徳源院様			
修行道場			
清水 瑞雲院様	足利 光得寺様	川崎 又玄寺様	熊谷 松藏寺様
磐田 永安寺様	小平 海岸寺様	富士吉田地蔵寺様	木曾 極楽寺様
取手 長禅寺様	佐原 清寛院様	掛川 三色院様	小田原 東学寺様
川崎 壽福寺様			
布教師			
島根 隆興寺様	明石 常楽寺様	美濃加茂正覚寺様	愛媛 城頭寺様
臨済宗青年僧の会OB			
磐田 泉蔵寺様	山梨 楽音寺様	沼津 徳源寺様	浜松 龍潭寺様
磐田 中泉寺様	岐阜 華蔵寺様		
部内			
佐倉 圓應寺様	佐倉 圓通寺様	佐倉 宝樹院様	印西 西福寺様
下志津 報恩寺様			
お手伝い			
湯島 麟祥院様	白山 是照院様	木更津 栖安寺様	下総 楽満寺様
成田 圓通寺様	守谷 海禅寺様	駒込 勝林寺様	千駄木 養源寺様
浅草 金龍寺様	下谷 月洲寺様	根津 圓光寺様	下志津報恩新命様
取手 高源寺様	佐原清寛院新命様		
法類			
小見川 樹林寺	佐原 妙性寺	四街道 清久寺	富浦 満蔵寺
親戚			
岩手 大安寺	岩手 靈桃寺閑栖	岩手 靈桃寺	

落慶法要で芙蓉庵老大師がとなえられた落慶の漢詩【上】と新仏開眼の漢詩【中左】です。

【中右】は、落慶法要当日の予定を和尚様方に知らせる「告報」というもので、読むお経や当日の流れがわかるようになっています。

左の表は、当日はご参列くださった和尚様方の一覧です。

## ご寄付の まとめ

この度の圓福寺伽藍再建に際してお願いさせていただいたご寄付については、「再建だより」紙上にて逐次お知らせをさせていただきました。

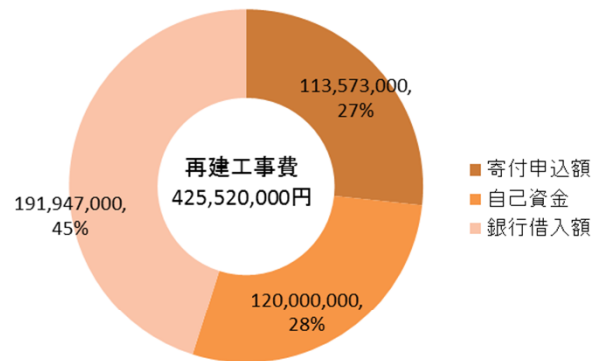
今回が最後のご報告となりますが、再建工事ならびに仏像仏具のどちらも目標額を越えるご寄付をいただき、皆様のご芳情に心より深謝申し上げます。ご寄付をしていただいた方のご芳名は、すでにお知らせの通り、本堂廊下に掲示しておりますので、お参りの折にでもご覧ください。

お寺といたしましては、今後、借入金の返済が滞らないように務めてまいりたいと存じます。

寄付目標額	86,760,000 円	
寄付申込額	113,573,000 円	
寄付超過額	26,813,000 円	
達成率	130.90%	
寄付人数	408 名	
寄付人数内訳	一括	368 名
	分割	40 名

### 資金計画進捗状況

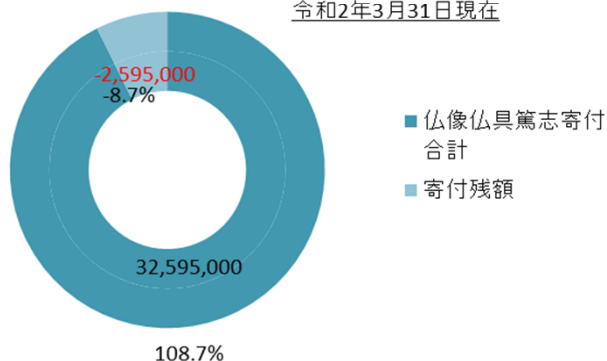
令和2年3月31日現在



仏像仏具寄付目標額	30,000,000 円	
仏像仏具篤志寄付合計	32,595,000 円	108.7%
寄付超過額	2,595,000 円	

### 仏像仏具篤志寄付途中経過

令和2年3月31日現在



【注記】ご寄付のまとめについて

- ※ 寄付申込額は、信徒・寺院を合わせた額となっております。
- ※ 寄付申込額の合計は、あくまでお申込みいただいた額ですので、収支報告書の額とは差異があります。分割未収の分とお申込みいただいた後に故人となられて実際にはご寄付がなされなかった場合、お申込みいただいたのに失念された場合などがあります。
- ※ 仏像仏具の篤志寄付についても、同様のことがございますので、収支報告書の額とは差異がございますことをご理解ください。
- ※ 「ご寄付のまとめ」は、ご寄付のお申し込みの概要で、みなさまのお気持ちを数字にしたもので、次ページの収支報告書は実際の金額を集計したものとご理解いただければ幸いです。



# 決算 ご報告

## 圓福寺伽藍再建工事収支報告書

宗教法人 圓福寺 代表役員 宮田 宗格  
他役員一同

科目	(単位:円) 合計
<b>【収入の部】</b>	
1、寄付・補助金収入	164,133,548
(1)志願金収入	10,010,000
(2)寄付金	144,123,548
信徒寄付金	107,098,548 ※1
寺院寄付金	4,880,000
仏像仏具寄付金	32,145,000
(3)本山見舞金	10,000,000
2、法要収入	9,603,000
(1)信徒志納金	4,603,000
(2)寺院志納金	5,000,000
3、資産管理収入	3,334
(1)受取利息・配当金収入	3,334
4、雑収入	15,270
5、伽藍再建特別会計繰入金収入	100,000,000
6、借入金収入	200,000,000
<b>[収入の部 合計]</b>	<b>473,755,152</b>
<b>【支出の部】</b>	
1、建設支出	433,825,036
(1)建設工事費	406,860,960 ※2
(2)設計監督料	26,873,848
(3)接待費	0
(4)会議費	1,814
(5)雑費	88,414
2、法要支出	10,630,649
(1)上棟式支出	924,387
(2)落慶法要支出	9,484,999
(3)雑費	221,263
3、本会計繰入金支出	991,335 ※3
4、資産取得支出	27,995,056
(1)特別財産取得支出	6,194,074
本尊・影像その他取得支出	6,194,074 ※4
(2)基本財産取得支出	21,800,982
什器備品取得支出	21,800,982
5、借入金返済支出	313,076
(1)長期借入金返済支出	0 ※5
(2)短期借入金利息返済支出	313,076
<b>[支出の部 合計]</b>	<b>473,755,152</b>

※1 信徒寄付金には、分割でご寄付お申込みの方の未収入金1,190,000円は、含まれておりません。

※2 建築工事費には、建物の工事費だけでなく、見積りに含まれていない外構工事や庭の工事費が含まれております。

※3 収支差し引き残額は本会計に繰り入れております。

※4 本尊脇侍仏の文殊・普賢像は発注は済んでおりますので、代金は計上してありますが、仏像は未納入となっております。

※5 すでに借入金の返済は始まっておりますが、本会計から返済しておりますので、この収支報告書には計上されてございません。



## 編集後記

平成31年2月24日に無事落慶法要を円成させていただき、その後の後始末やらが終わったら、再建工事ロスに陥り・・・と言えば、さもありなんとはい訳には十分ですが、そうではなく、慣れない新しい建物での行事のたびに戸惑い、ばたばたと月日が過ぎてしまいました。

役員会で再建工事の会計を締めることと決まってから、会計をまとめて、どのように皆さんにご報告をするかを考えていたら、落慶法要のビデオ上映会は行ったものの落慶法要のまとめをしていなかったのではないかと、はたと気づき、落慶法要と会計報告を一つにしようと取り掛かりました。進めるにあたって、「再建だより」や寺報、ホームページなどをひっくり返していると、ホームページに「現場だより」として掲載している工事の進捗を折々お知らせしているものがどれほどの人の目に届いているのかと気になり、この「現場だより」も一緒にしようと思立ちました。そこで、当初は数ページのお知らせにするつもりが、30ページ以上の冊子になってしまいました。

例年だと春彼岸の法要、その後、幼稚園の卒園、新学期と目まぐるしいのですが、幸いといったら語弊がありますが、折からの新型コロナで幼稚園は5月連休まで休園の措置をとり、世は非常事態で外出自粛でご法事も延期延期となり、寺務所に引きこもり集中して編集作業に取り組むことができました。

この冊子を手にとられた皆さんには、伽藍の再建工事、落慶法要の様子などを、ぱらぱらとめくっていただければ幸いです。また、再建工事の収支も、役員さんに精査していただきましたので、ここにご報告させていただきます。

## 圓福寺再建のご報告

令和2年4月20日

編 集 宮田 宗格

発 行 臨濟宗妙心寺派 圓福寺

印刷・製本 穴川花園幼稚園



臨濟宗妙心寺派 圓福寺

〒263-0025 千葉市稲毛区穴川町375

TEL 043-251-9181

Fax 043-251-9549

E-mail [oshou@chiba-enpukuji.com](mailto:oshou@chiba-enpukuji.com)